

何の爲にキサマはダニのやうに俺に喰付いて居なければならぬ様に生れて来たんだ。

肥たごかつぎのナフタリン奴」

俺はしよつ中長講舌を振るつて、二人の角袖を殘飯のやうにやつつけた。

彼等は一言もなく、垂井か大垣かで乗り込んで来た他の二人と交替して降りて行つた。

俺は眠らなければならぬ。

ゴトンゴトンブユーブブーと厭な音響を發する日本の汽車の野郎には愛憎がつきた。

何うせ生れて来たものは、生れかはる必要があるぞ俺は考へてゐた。

萬物は萬物の自體を潰して粉にしてヒン飲め。

鯨の精液も、ダイヤモンドの化粧品になるまでには、フライ盤で揚げなければならぬ。

「大陽よ。

俺の膀胱の中には、お前程の結石が出来た」

と言つても夜だからね。

俺はウト／＼としたかも知れない。